

佐賀県林業試験場の概要

Saga Prefectural Forestry Experiment Station

令和7年(2025年)4月



サガンスギ生産者トレーニングセンター



さが林業アカデミー(講習会)

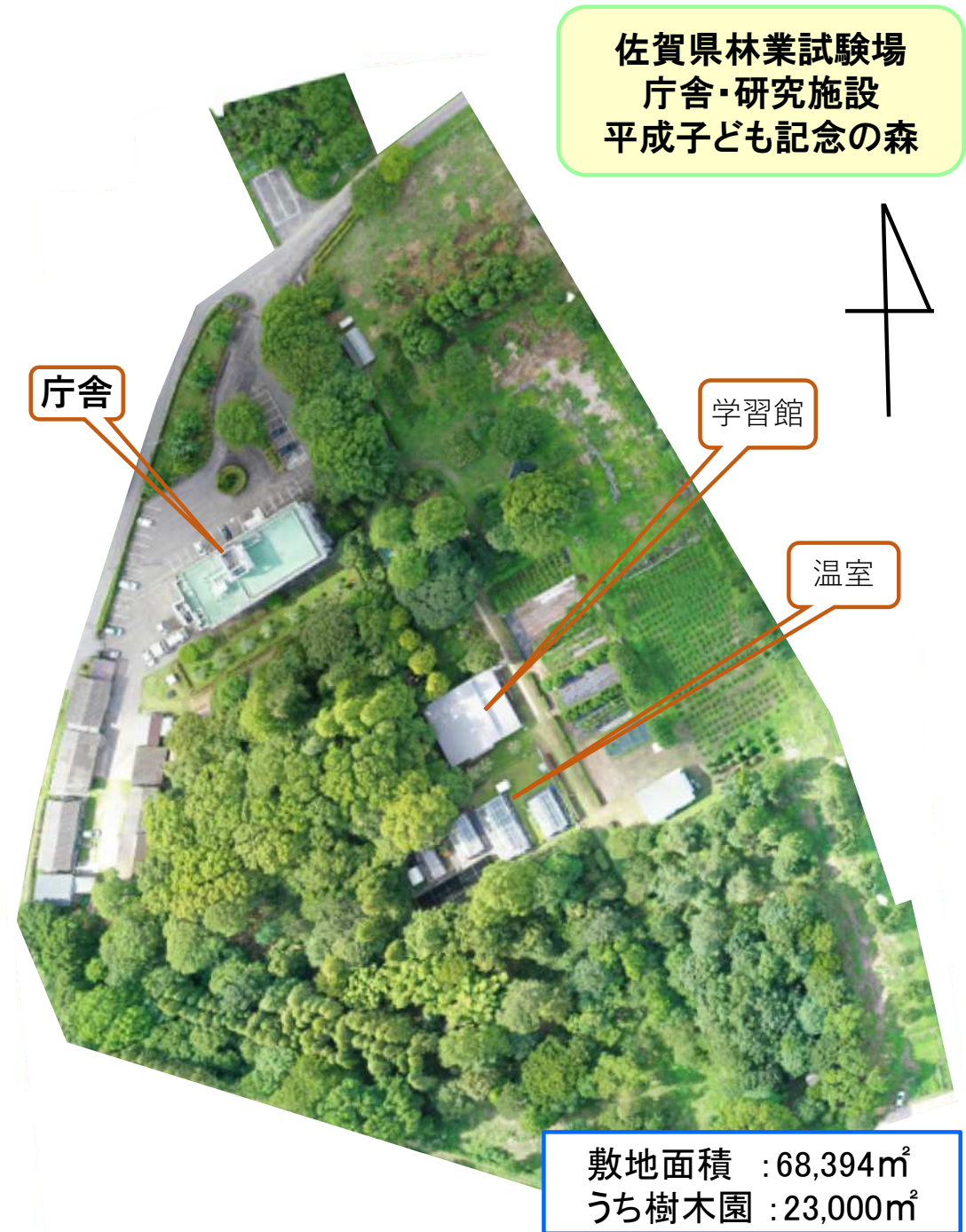


サガンスギ(4年生)

佐賀県佐賀市大和町大字池上3408

目 次

- 1 沿革
- 2 組織と業務
- 3 予算の推移
- 4 研究開発の取組
 - (1) 試験研究の重点事項
 - (2) 研究課題一覧表
- 5 普及指導の取組
- 6 林業試験場案内図



1 沿革

- 1952 (S27) 年 3月
佐賀県林業試験場設置条例が制定され、佐賀県林業試験場として発足
(川上種馬育成場跡(畜産課)から引継いだ県営川上苗圃に設置)
- 1953 (S28) 年 1月
経営科と種苗科が設置
- 1957 (S32) 年12月
経営科、種苗科を廃止し、研究管理室と樹苗養成室を設置
- 1942 (S37) 年 5月
研究管理室を経営管理室と研究室に分離し、樹苗養成室を育苗室に変更
- 1975 (S50) 年 8月
経営管理室を廃止し、庶務課を設置、研究室を育林経営研究室と緑化林産研究室に
分離、育種課を新設
- 1978 (S53) 年12月
新庁舎竣工、林業技術実習指導施設併設
- 1985 (S60) 年 4月
育種課を育種室に改称
- 2000 (H12) 年 4月
育種室を普及指導室に改称
- 2002 (H14) 年 4月
育林経営研究室と緑化林産研究室を研究開発室に統合
- 2003 (H15) 年 3月
平成子ども記念の森、学習館竣工
- 2004 (H16) 年 4月
庶務課を総務課に、研究開発室を研究開発担当に、普及指導室を普及指導担当に改称
- 2019 (H31) 年 4月
普及指導担当を普及指導課に改称(林業課の普及指導部門が移管)



林業試験場庁舎(昭和33年(1958年)頃)



林業試験場庁舎(昭和53年(1978年)竣工)

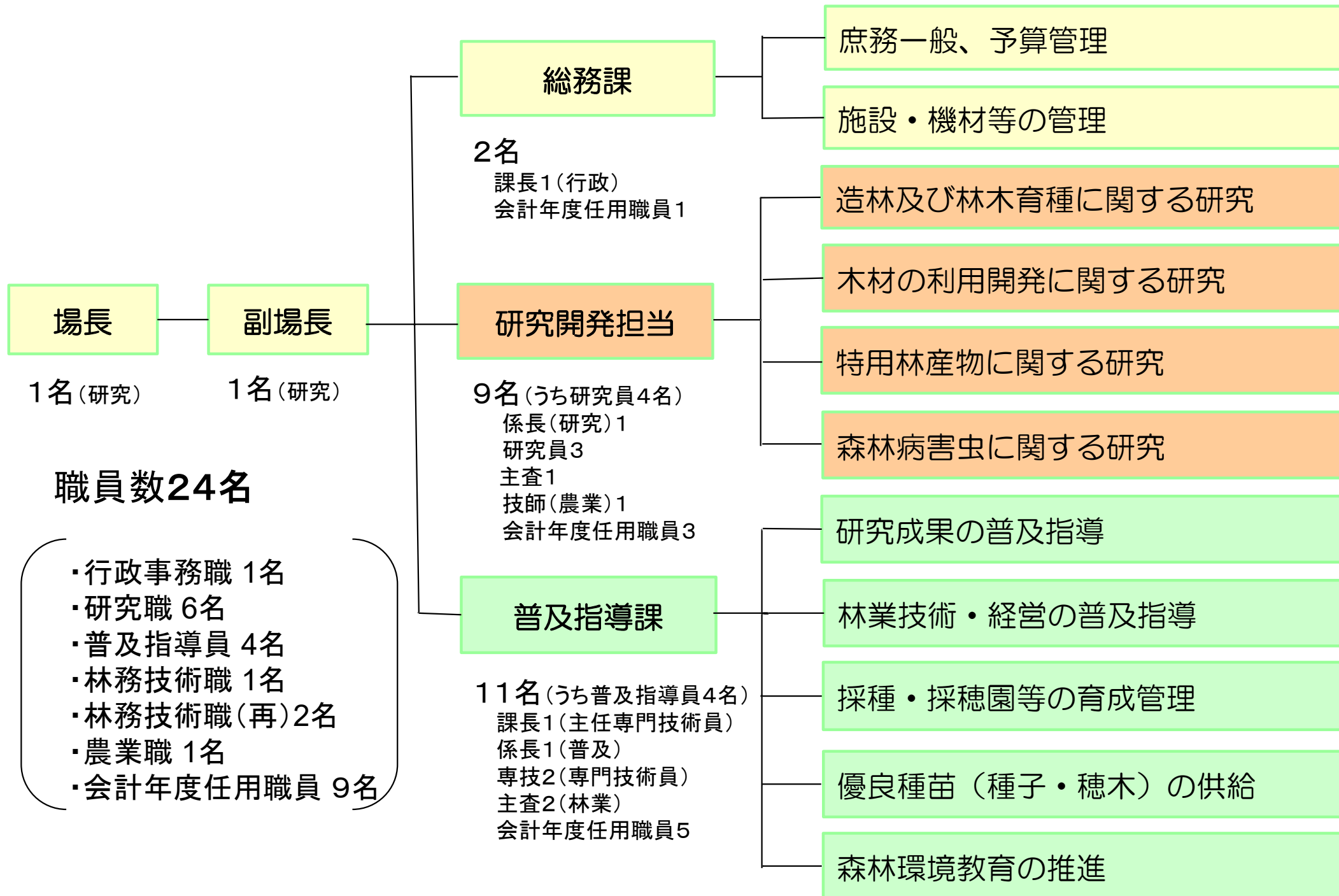


正門(昭和50年(1975年)頃)



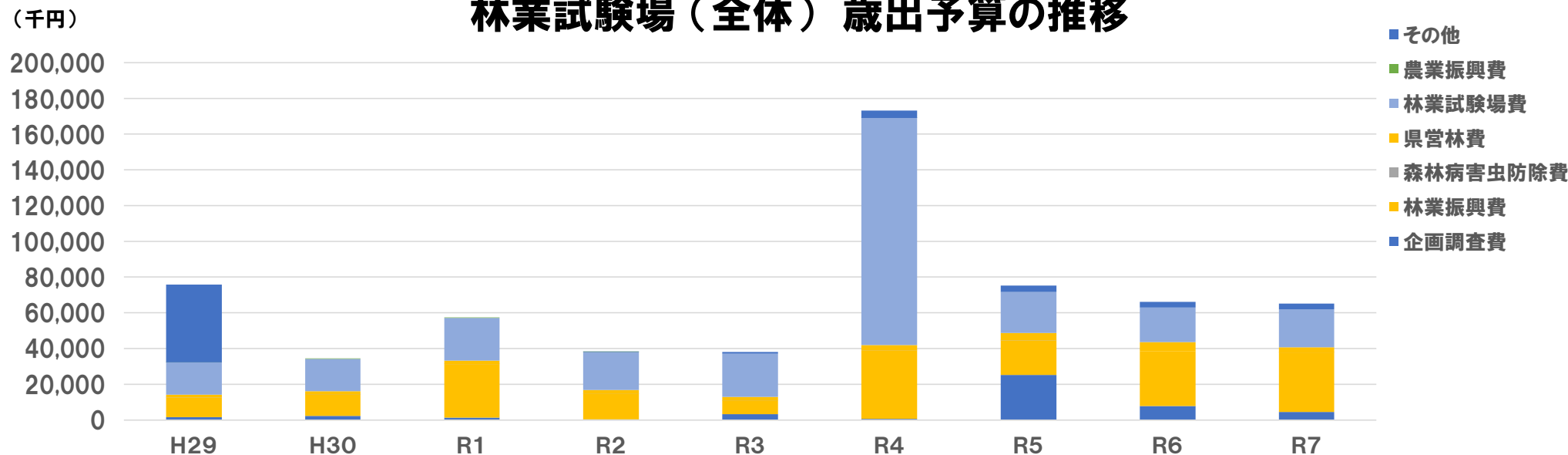
平成子ども記念の森・学習館(平成15年(2003年)竣工)

2 組織と業務



3 予算の推移①

林業試験場（全体）歳出予算の推移



※R4（2022）の外壁等工事は林業試験場費に計上。R5(2023)のサガンスギ温室（電源立地交付金）は企画調整費に計上。

(単位：千円)

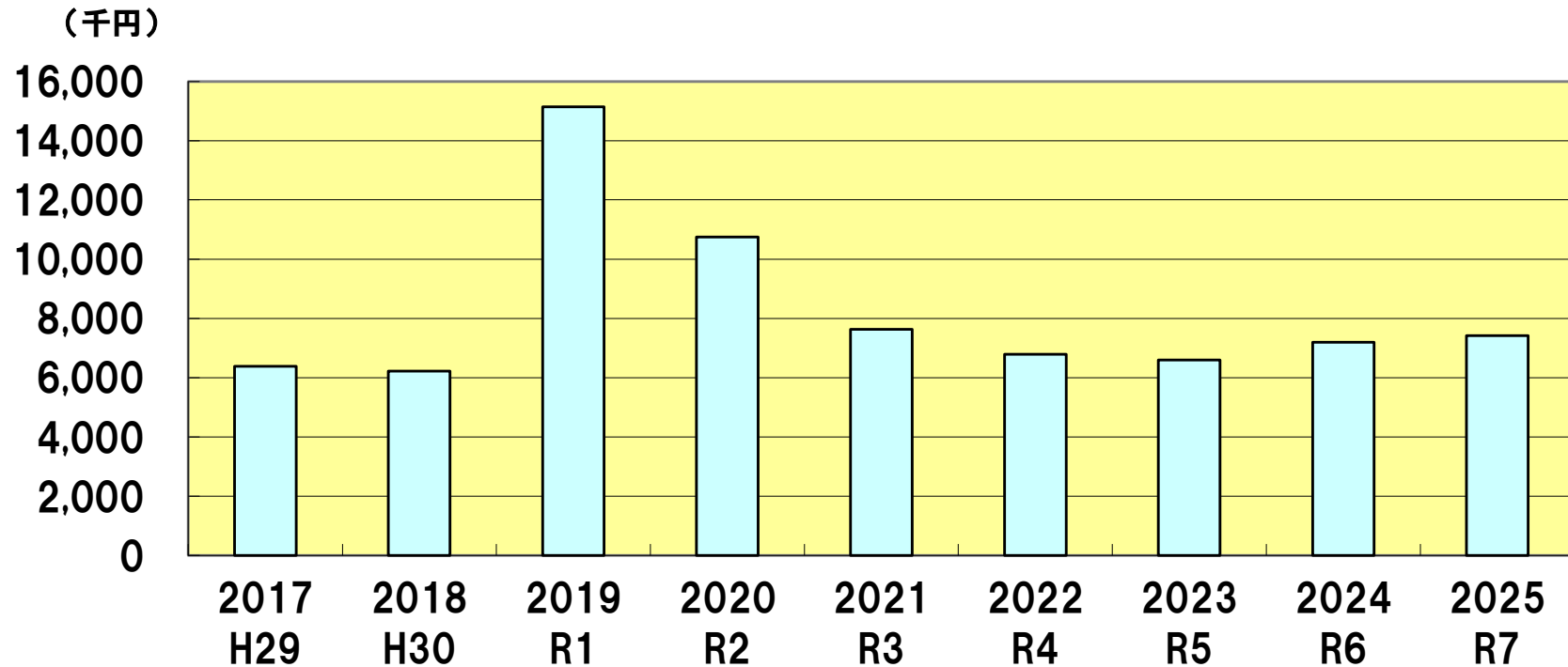
年度	西暦	企画調査費	林業振興費	森林病虫害防除費	県営林費	林業試験場費	農業振興費	その他	計
H29	2017	1,414	11,014	19	1,754	18,194	2	43,412	75,810
H30	2018	2,129	12,051	28	1,939	18,185	0		34,332
R1	2019	1,092	30,263	13	1,981	23,604	1		56,953
R2	2020	220	14,261	1	2,140	21,302	159	237	38,320
R3	2021	3,163	7,572	1	2,300	24,050	0	897	37,982
R4	2022	537	38,357	13	3,056	127,140	1	4,193	173,297
R5	2023	25,296	19,370	4	4,090	22,886	0	3,450	75,096
R6	2024	7,628	30,796	0	5,052	19,483	0	3,223	66,182
R7	2025	4,449	33,219	14	3,104	21,261	0	3,232	65,279

※R6(2024)までは決算ベース、R7(2025)は当初予算ベース

※R1(2019)～R2(2020)の林業振興費は、普及指導課の新設・新規事業の実施増、及び行政依頼課題の実施増などによる予算増あり。

3 予算の推移②

林業試験場の試験研究予算の推移



(単位 千円)

区 分	2017 H29	2018 H30	2019 R1	2020 R2	2021 R3	2022 R4	2023 R5	2024 R6	2025 R7
一般財源	5,500	5,460	7,377	4,175	2,005	2,950	4,072	3,868	3,935
一般以外	885	757	7,777	6,568	5,633	3,840	2,518	3,323	3,490
合 計	6,385	6,217	15,155	10,743	7,638	6,790	6,590	7,191	7,425

※ R 2 (2020) までは決算ベース、R 3、R 4 は6月補正後ベース、R 5～当初予算ベース。(行政依頼課題含む。)

※ R 1 (2019)～R 2 (2020) は新規研究課題及び行政依頼課題の実施増による予算増

4 研究開発の取組

(1) 試験研究の重点事項 (令和7(2025)年度)

① 造林及び林木育種に関する研究 (低コスト林業の推進)

- ・サガンスギ苗木の効率的な育苗技術の開発
- ・新たな樹高成長評価推定モデルを活用した地位推定技術の開発 (共同研究)
- ・ゲノム予測技術を用いたサガンスギの無花粉化に関する研究

② 森林環境に関する研究 (森林環境の保全)

- ・無花粉スギの生産・増殖効率の改善 (共同研究)

③ 木材の利用開発に関する研究 (県産木材の利用推進)

- ・クリーク杭木の耐久性向上に関する研究

④ 特用林産物に関する研究 (特用林産物の振興)

- ・原木しいたけ栽培の省力化に関する研究
- ・森林所有者の所得向上につながる特用林産物の調査

◎ その他行政課題等 (4課題 (森林・林業関連調査))

- ・放射光-X線回折法による年輪内材質形質の評価技術の確立 ほか

(2) 研究課題一覧表 令和7(2025)年度

【研究課題 6課題】 【行政課題等 4課題】

令和7(2025)年度 林業試験場 研究課題一覧

課 題 名		新継	分野	期 間	予算 区分	予算額	試 験 内 容	参 考 主担当
1	サガンスギ苗木の効率的な育苗技術の開発	継	育林	R 5 (2023) ～ R 7 (2025)	県単	2,612	サガンスギの苗木生産量が少ない現状のなか、今後のサガンスギ需要拡大に伴う、山行き苗の生産拡大と安定供給に資するため、効率的な育苗技術の確立を図る。	
2	新たな樹高成長評価モデルを活用した地位推定技術の開発 〔森林総合研究所関係（共同研究）〕	継	育林	R 5 (2023) ～ R 9 (2027)	その他	1,000	新たな樹高成長推定モデルを活用した地位推定技術を開発し、樹高成長に影響する立地環境特性や生物的特性の解明を行い、樹高成長予測の精度及び汎用性の向上をめざす。	
3	ゲノム予測技術を用いたサガンスギの無花粉化に関する研究 〔将来を見据えた新たな試験研究〕	継	育種 (育林)	R 5 (2023) ～ R 7 (2025)	県単	800	佐賀県独自の第一世代精英樹と第二世代精英樹でゲノム予測モデルを構築し、ゲノム予測の精度を高め、無花粉スギの作出をめざす。	
4	無花粉スギの生産・増殖効率の改善 〔林木育種センター関係（共同研究）〕	継	育種 (育林)	R 4 (2022) ～ R 7 (2025)	委託	250	無花粉遺伝子を有するスギ精英樹等の着花状況や種子生産状況等の特性調査を行うとともに、無花粉遺伝子を有するスギ精英樹と次世代スギ精英樹等を用いた人工交配を行う。	
5	クリーク杭木の耐久性向上に関する研究	継	林産 (木材)	R 1 (2019) ～ R 10 (2028)	県単	554	クリーク木柵工に各種の耐久性向上処理を施すことにより、木柵工の耐用年数の向上を図る。また、木材腐朽菌を使用した耐腐朽性試験を実施し、耐久性の早期解明をめざす。	
6	原木しいたけ栽培の省力化に関する研究	継	特用 林産	R 2 (2020) ～ R 9 (2027)	県単	769	原木しいたけ栽培において、加工した大径原木を用いた省力化の検討、春切り等による秋期の作業分散の有効性の検証、古ホダ木への発生操作の費用対効果の調査等を行う。	
研究課題（林業試験場予算）						5,985		
1	松くい虫発生予察事業	継	保護	S 49 (1974) ～	行政 依頼 県単	14	マツノマダラカミキリの成育及び発生調査を行う。	
2	ヨコバイ類によるサカキ被害状況の調査	継	保護	R 1 (2019) ～	行政 依頼 県単	3	サカキヒメブチヨコバイによるサカキへの食害の実態調査を行う。	
3	クリーク木杭の耐腐朽性等に関する調査	継	林産 (木材)	H 24 (2012) ～	行政 依頼 県単	10	クリーク防災杭に使用される木杭の耐久性調査を行う。	
4	放射光－X線回折法による年輪内材質形質の評価技術の確立と複数のスギ系統における年輪内材質形質の選抜手法の検討 〔九州シンクロトロン光研究センター関係(共同研究)〕	新	林産 (木材)	R 6 (2024)	行政 依頼 県単	1,413	スギ系統における年輪内材質形質について、放射光を用いた調査を行う。	
行政依頼課題等（林業課等予算）						1,440		
合 計						7,425		

① サガンスギ苗木の効率的な育苗技術の開発

研究開発の取組

(2023(R5)～2025(R7))

【R7予算額:2,612千円】

◇ 目的

サガンスギは、現在、苗木生産量が少ないため、山行き苗の生産拡大が急務となっている。このため、コンテナ苗による最適な苗木生産方法や植林後の成長量を検証し、より効率的に短期間で苗木を生産する技術を開発する。

【試験研究内容】

- 1 発根後に床替作業を行わない直挿しによる苗木生産試験
 - (1) 挿付時期の検討
 - (2) 挿付サイズ（25cm以上）の検討
 - (3) 挿付培地と容器の検討
- 2 小型の穂（20cm以下）を活用した苗木生産試験
 - (1) 育苗スケジュールの検討
 - (2) 培地と施肥の検討
- 3 植栽試験地における成長量調査
 - (1) 生分解性ポット苗の成長調査
 - (2) 苗木規格別の成長量調査



直挿しによる挿付



現状の資材



成長量調査

② 新たな樹高成長評価モデルを活用した地位推定技術の開発

研究開発の取組

(2023(R5)～2027(R9))

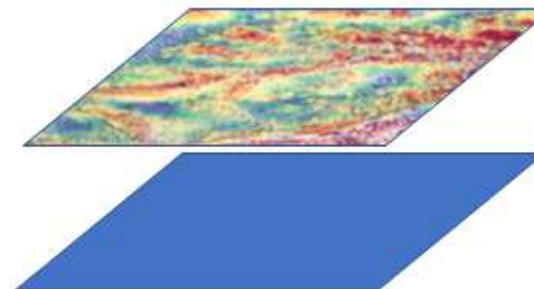
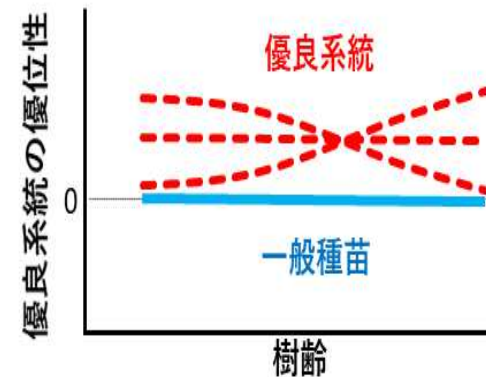
【R7予算額:1,000千円】

◇ 目的

新たな樹高成長推定モデルを活用した地位推定技術を開発するとともに、樹高成長に影響する立地環境特性や生物的特性の解明を行い、樹高成長予測の精度及び汎用性の向上を目指す。

【試験研究内容】

- 1 航空レーザー測量、森林簿情報等による樹高成長推定モデルの構築
 - (1) スギの樹高成長推定モデルの構築
 - (2) 毎木調査
 - (3) 地位推定マップ作成
- 2 林木の成長に影響を及ぼす立地環境要因の解明
 - (1) 立地環境調査
 - (2) 若齢林分の毎木調査



エリートツリー等を
活用した
林業採算性マップ
(イメージ)

③ ゲノム予測技術を用いたサガンスギの無花粉化に関する研究

研究開発の取組

(将来を見据えた新たな試験研究推進事業) (2023(R5)～2025(R7))

◇ 目的

【R7予算額:800千円】

無花粉遺伝子が次世代に受け継がれた個体を選抜し、その個体にゲノム予測選抜を適用することで、成長や材質がサガンスギと同等かつ無花粉の遺伝子を持つ個体を実生段階で選抜する。

【試験研究内容】

- 1 次世代シーケンサーのためのDNAの精製技術の習得
- 2 300個体分のDNA精製濃度調整、プライマーの添加、断片化、識別バーコードの添加、サイズ選択
- 3 次世代シーケンサーによるDNAデータの取得
- 4 大規模ゲノムデータの解析
- 5 ゲノム予測モデルの適用

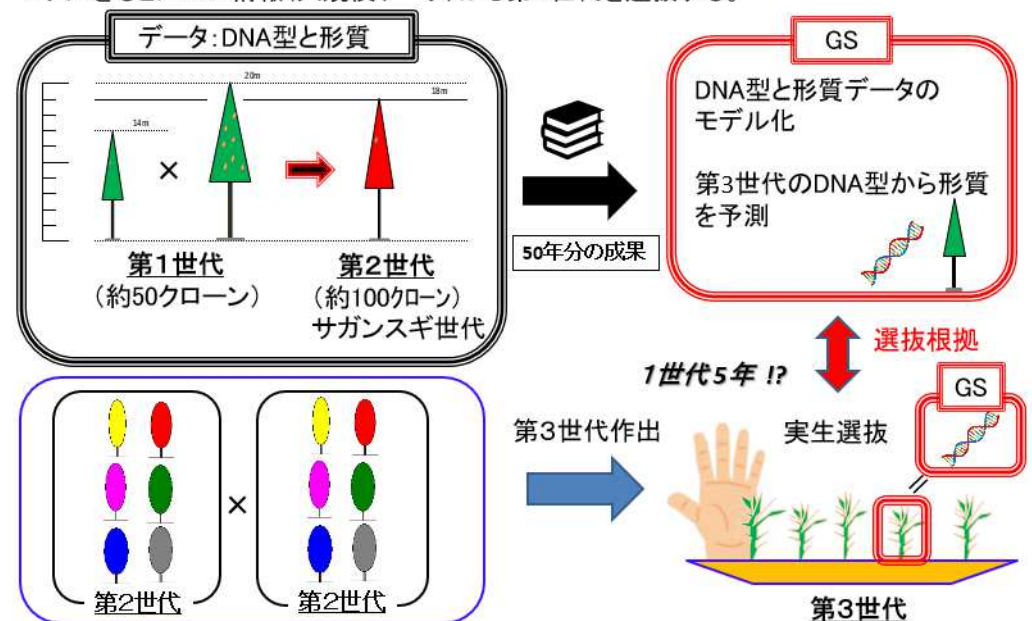
- ・ 無花粉遺伝子（質的形質）を1箇所DNA上の変異で確認する。
- ・ 成長や材質（量的形質）を約10,000箇所のDNA上の変異と約50年をかけて蓄積した形質情報との関係から予測する。

ゲノミック セレクション (Genomic Selection)

ゲノム予測選抜



DNA型 (SNP: 次世代シーケンサー) と形質 (樹高、材質、雄花量) の関連をモデル化する。モデルをもとにDNA情報 (大規模データ) から第3世代を選抜する。



④ 無花粉スギの生産・増殖効率の改善 (林木育種センターの委託研究)

研究開発の取組

(2022(R4)～2025(R7))

【R7予算額:250千円】

◇ 目的

無花粉遺伝子を有するスギ精英樹等の着花状況や種子生産状況等の特性調査を行うとともに、無花粉遺伝子を有するスギ精英樹と次世代スギ精英樹等を用いた人工交配を行う。

★ 取組状況

- 無花粉遺伝子を有するスギ精英樹（神埼1号）と通常のスギ精英樹の自然着花及びジベレリン処理による人工着花における雌雄花の着花状況、種子生産状況、発芽率等の特性調査
- 無花粉遺伝子を有するスギ精英樹（神埼1号）と次世代スギ精英樹等による人工交配

☆ 今後の取組

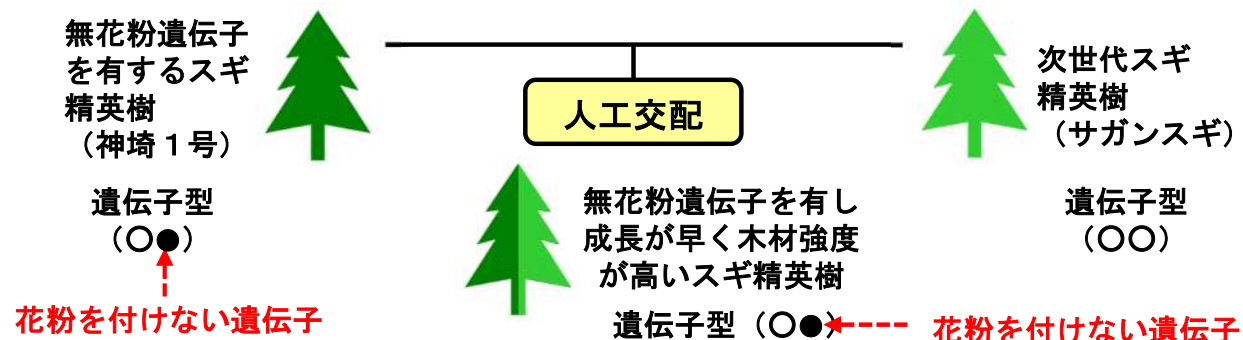
- 引き続き、雌雄花の着花状況、種子生産状況、発芽率等の特性調査、無花粉遺伝子を有するスギ精英樹（神埼1号）と次世代精英樹等による人工交配を行う。



人工交配状況



着花状況調査



⑤ クリーク杭木の耐久性向上に関する研究

研究開発の取組

(2019(R1)～2028(R10))

【R7予算額:554千円】

◇ 目的

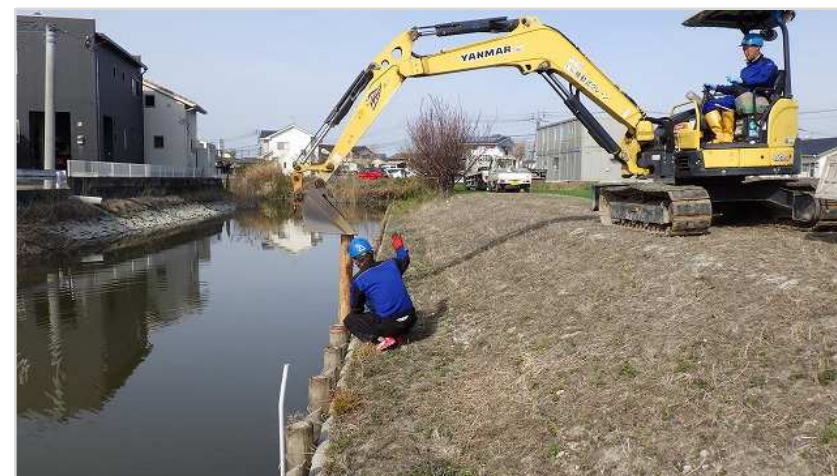
スギ間伐材を用いたクリーク木柵工の耐久性の向上のため、杭の頭部における施工方法の改良等について試験研究を行い、耐用年数の長期化を図る。

★ 取組状況

- 試験杭の現地施工及び調査
 - 試験杭の現地施工及び追跡調査
- 新たな防腐処理方法の検討
 - 市販の塗料とC N F（セルロースナノファイバー）を混合した塗料等による試験杭の作製

☆ 今後の取組

- 耐久性向上処理を施した背板の製作
- 試験杭、背板の現地施工及び追跡調査
- 更なる杭頭処理方法の検討
- 各施工方法のコスト分析
- 人工的な腐朽処理技術による耐久性の早期解明



試験杭の施工状況



試験杭の設置箇所

⑥ 原木しいたけ栽培の省力化に関する研究

研究開発の取組

(2020(R2)～2027(R9))

【R7予算額:769千円】

◇ 目的

生産者の高齢化が懸念されている中、労働負荷の大きい原木栽培においては作業の省力化は大きな課題である。そこで、①大径原木の利用、②秋期の作業分散、③古ほだ木の発生操作の観点から原木栽培の省力化を図り、原木しいたけの安定生産に寄与する。

★ 取組状況

○大径原木の省力的な利用方法

縦4分割、縦2分割、短木等のほだ木の作製、発生操作、収量調査など

○原木の春切り

春切り原木（2月～4月伐倒）のほだ木の作製、発生操作、収量調査など

○古ほだ木への発生操作

くぎ目入れ＋散水、ヒモカッター＋散水、散水等の発生操作、収量調査など

☆ 今後の取組

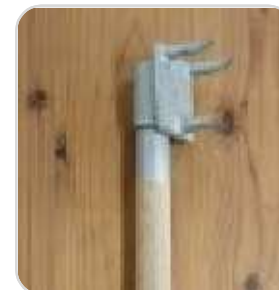
○各試験区分での発生操作

○大径原木、春伐り原木、古ほだ木、小径原木の収量調査

○大径原木、春切り原木、小径原木等のほだ木の作製



春切り原木のほだ木の発生状況



くぎ目入れ



ヒモカッター

① 松くい虫発生予察事業

(1974(S49)～)

【R7予算額:14千円】

◇ 目的

松くい虫被害木からのマツノマダラカミキリの羽化発生状況と、気温（積算温度）等の気象条件との関係を調査し、今後の成虫発生時期を予測する。

この結果については、昭和48年から県内で実施されている松くい虫特別防除（航空防除）の実施時期決定の参考資料となっている。

★ 取組状況

○林試場内において、被害マツの割材調査を実施。

→出現したマツノマダラカミキリの幼虫または蛹の数を計測し、10頭中の蛹の頭数割合（蛹化率）を算出

○林試場内の網室内の試験木から羽化した成虫数を初発日から終息するまで毎日調査。

→令和6年の初発日は6月11日で平年より8日遅かった。また、初発日までの有効積算温度（日平均気温が発育限界温度を超えた合計値）は559.9度であった。

☆ 今後の取組

○引き続き、羽化発生状況等の調査を行う。



割材調査状況



マツノマダラカミキリの幼虫

② ヨコバイ類によるサカキ被害状況の調査

(2019(R1)～)

【R7予算額:3千円】

◇ 目的

県内のサカキ生産地において、新種のサカキブチヒメヨコバイ（以下ヨコバイ）による食害が確認された。今後は出荷量の減少などの悪影響が懸念されるため、被害状況調査を実施する。

★ 取組状況

- 当該サカキ生産地において、概ね月1回のペースでヨコバイの発生状況及びサカキへの被害状況を調査し、粘着シートによるヨコバイの発生状況調査では、6月の発生頭数がピークであった。
- 4月にダイリーグ粒剤、5月にスミチオン乳剤による薬剤散布を行っていた地区は、ヨコバイの発生頭数、葉の被害状況ともに、7月以降に増加する傾向にあった。
- 他県でのヨコバイの発生状況、被害状況等について、他機関等と情報収集・交換を行った。



食害を受けたサカキの葉

☆ 今後の取組

- 前述のサカキ生産地等において、サカキへの被害の進行状況の継続調査を行う。
- ヨコバイによるサカキ等への被害等について情報収集を行い、適用登録薬剤等による効果的な防除ができる体制を整える。



ヨコバイ（幼虫）



ヨコバイ（成虫）

③ クリーク木杭の耐腐朽性等に関する調査

(2012(H24)～)

【R7予算額:10千円】

◇ 目的

佐賀平野のクリークは約800kmが土水路であるため、法面が浸食され、通行や営農に支障が出ている箇所がある。平成24年度から県産スギ間伐材を用いた「木柵」による護岸工事が本格的に行われているが、水辺で使用するスギ材の耐久性については明らかになっていないため、現地施工されている木柵工の木杭を引き抜き、耐久性評価のための各種調査を実施する。

★ 取組状況

○平成21～24年度に県内で施工されたクリークを3箇所程度を選定し、年1回5本／箇所ずつ杭木の引抜を実施。

→杭引抜後、場内に運搬し各種調査を実施。水面上部に位置する部位を小さくすることで、8年以上の耐用年数を維持できるものと考えられる。



クリーク杭引抜状況

☆ 今後の取組

○引き続き調査を行い、木杭の耐久性を確認する。



ピロディン調査状況

④ 放射光－X線回折法による年輪内材質形質の評価技術の確立と複数のスギ系統における年輪内材質形質の選抜手法の検討 (2024(R6)～2027(R9))

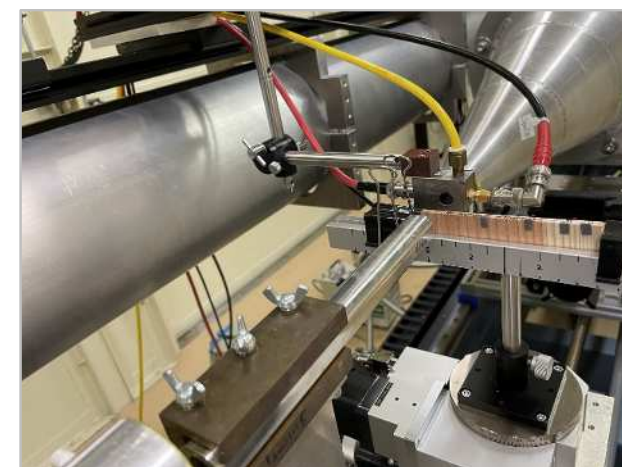
◇ 目的

【R7予算額:1,413千円】

森林総合研究所林木育種センター、九州シンクロトロン光研究センター、佐賀県林業試験場の共同研究により、日本の主要な林業用樹種であるスギについて、放射光X回折法を用いた年輪内材質形質の評価技術を確認し、それによる複数のスギ系統の材質評価に基づいた優良系統の選抜手法を検討する。

★ 取組内容

- 放射光X線回折施設を用いたミクロフィリル傾角の測定技術の確立
- 新たに開発するスギ新品種の選抜
- スギの材質評価の高度化、材質の優れた無花粉サガンスギの開発



ミクロフィブリル傾角の測定状況

5 普及指導の取組

(1)平成子ども記念の森の概要

1 整備目的

敬宮愛子内親王御誕生を記念するとともに、次代を担う子どもたちに森林や自然とのふれあいを通じて、森林・林業の重要性について理解促進を図り、知性豊かな人格形成に資するため、平成15年3月に整備

2 整備概要

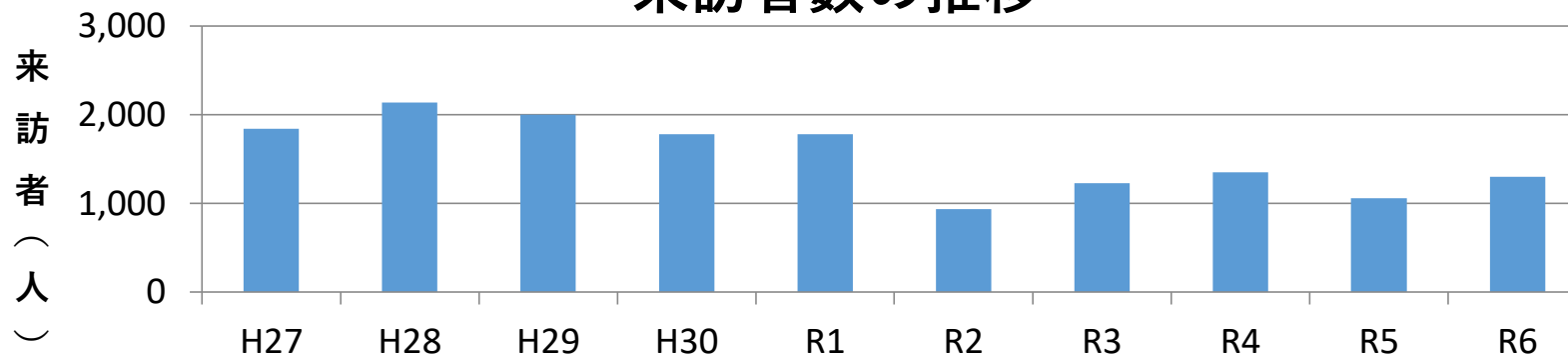
(千円)

年度	整備内容	事業費
H14	○平成子ども記念の森学習館(木造平屋:283㎡) ○樹木園(8,400㎡) ○その他(散策道等L=351m)	99,260
H25	○樹木園整備、樹木版設置、木道補修等	13,013
R4	○藤棚改修	1,210
R5～6	○木製デッキ補修	2,538
計		116,021

3 来訪者数の推移

区分	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
来訪者	1,841	2,137	2,004	1,781	1,781	935	1,227	1,350	1,060	1,301

来訪者数の推移



(2) 森林環境教育・林業技術研修

林業試験場開放行事
「小さな森の探検隊」の開催



小中学生等を対象と
した森林体験学習



フォレストワーカー等の
林業技術者育成研修



県民や苗木生産業者を
対象とした研修



（３） 2024(R6)年度林木育種事業・優良種苗確保事業

事業名	内 容	事業費等 (千円)	事業量	備 考
採種源整備運営事業	・採種園・採穂園(スギ・ヒノキ・マツ)の下刈り、樹形誘導、施肥	1,748	6.35ha	林試採種園・採穂園
種子採取事業	・ヒノキの種子採取及び販売	233	2.00kg	林試採種園
穂木採取事業	・スギ精英樹、サガンスギ(次世代スギ精英樹)の穂木採取及び販売	1,048	146,900本	林試採穂園 大町採穂園
採種・採穂園育成管理事業	・採種・採穂園の伐採樹木の処分	634	96㎡	林試採穂園
県営林管理事業	・採穂園(スギ)の下刈、つる切り、樹形誘導、施肥、残材処分	5,048	4.10ha	大町採穂園
サガンスギの森林100年構想	・サガンスギ採穂園の管理道 コンクリート路面工等	15,091	203m	〃
合 計		23,802		

種子及び穂木の生産量の推移

年度	種子(kg)					穂木(本)				
	スギ	ヒノキ	クロマツ	アカマツ	計	サガンスギ	スギ 精英樹	ヒノキ 精英樹	虹青	計
R1	0.60	11.50	0.10	0.50	12.70		52,000	500	3,000	55,500
R2		8.50			8.50	21,475	48,000			69,475
R3		14.70*			14.70	36,900	37,000			73,915
R4		18.50※			18.50	60,700	37,000			97,700
R5		29.60※			29.60	77,500	35,000			112,500
R6		30.00※			30.00	107,900	39,000			146,900

※種子の生産量は洗剤選を行う前の数量であるため、販売量とは異なる。

(4) サガンスギコンテナ苗等の生産指導

令和6年11月から、当场が研究、開発したコンテナ苗の生産技術や小型の穂による苗木生産技術等を普及するため、県内のサガンスギ苗木生産者のみなさまやこれから苗木生産を始めようと考えている方を対象にした「サガンスギ苗木生産者トレーニングセンター」を設置しました。



講習内容	1月～4月、9月～12月	挿木技術の指導
	1月～8月	育苗技術(施肥・床替)の指導
	1月～12月	育苗管理の指導
	4月、12月	採穂台木の育成管理の指導

(5) 普及指導活動

農林事務所や林業試験場の林業普及指導員、専門技術員が、森林所有者や林業経営体等の林業技術改善、林業経営の合理化等を推進し、林業の振興と森林資源の循環利用を図る

① 巡回指導

林業普及指導員は、それぞれが担当する地域において、林業経営の改善、複数の森林施業の集約化による効率的な木材生産、最新技術による低コスト化等を推進

② 職員の技術向上研修

林業普及指導員が地域において効果的な指導が行えるよう、専門技術員による研修を実施

- ・刈払機安全操作指導
- ・チェーンソー安全操作指導
- ・軽架線システム指導
- ・森林作業道作設指導
- ・サガンスギ植栽指導
- など



(6) 林業経営体育成事業

林業経営体の現場技術者等の技術力向上及び職場内で労働安全対策を担う職員等の資質の向上を図る研修を実施

① 機械整備・伐木等高度技術研修

チェーンソー等の整備や目立て方法及び適切な受口や追口の制作、危険木伐倒実習など高度な技術を習得

② 高性能林業機械安全操作研修

スイングヤーダの効率的な索張り、ハーベスタ等の安全でコスト縮減につながる操作方法、メンテナンス技術を習得

③ コスト管理・分析研修

現場作業におけるボトルネックを洗い出し、コスト管理と労働安全対策を両立するための知識、手法を習得



(6) 林業経営体育成事業

④ ICT活用路網整備研修

森林GIS等を活用した、地形、林分、森林経営計画等を勘案した、効率的な路網配置を計画できる知識の習得及び、効率的な作業システムの導入を図るため、安全で壊れにくい森林作業道の作設技術の習得



⑤ 林業架線作業主任者養成研修

急傾斜地など路網整備が不適な場所で活用する、林業架線による木材生産技術の習得

※林業作業の中で唯一「免許」が必要な業務

学科: 7日 架線の基礎、力学、ワイヤーなど

実技: 7日 機械設置、索張り、集材作業など

試験: 1日 4科目の修了試験



(7) 林業後継者等育成確保対策事業

① 意欲的林業者グループ交換研修事業

林業研究グループの全国及び九州地区での学習活動への参画支援を実施



② 林業就業促進体験事業

県内の高校生に対し、林業就業促進を図るため、林家や林業経営体への体験研修を実施



③ 林業教室

- ・CSO安全講座 地域の団体やボランティア団体に対する安全な森林整備方法や機械の取扱講習を実施
- ・行政等基礎講座 市町担当者や林業事業体の経験が浅い者に対する林業技術の基礎講習を実施



(8) さが林業アカデミー・林業講習会

県産木材の価格が上昇傾向にある機会を捉え、佐賀の山を守り育てるために林業の再生を図ることが重要であるが、林業就業者が年々減少していることから、林業従業者を新たに見出し教育するための講習会を実施する。

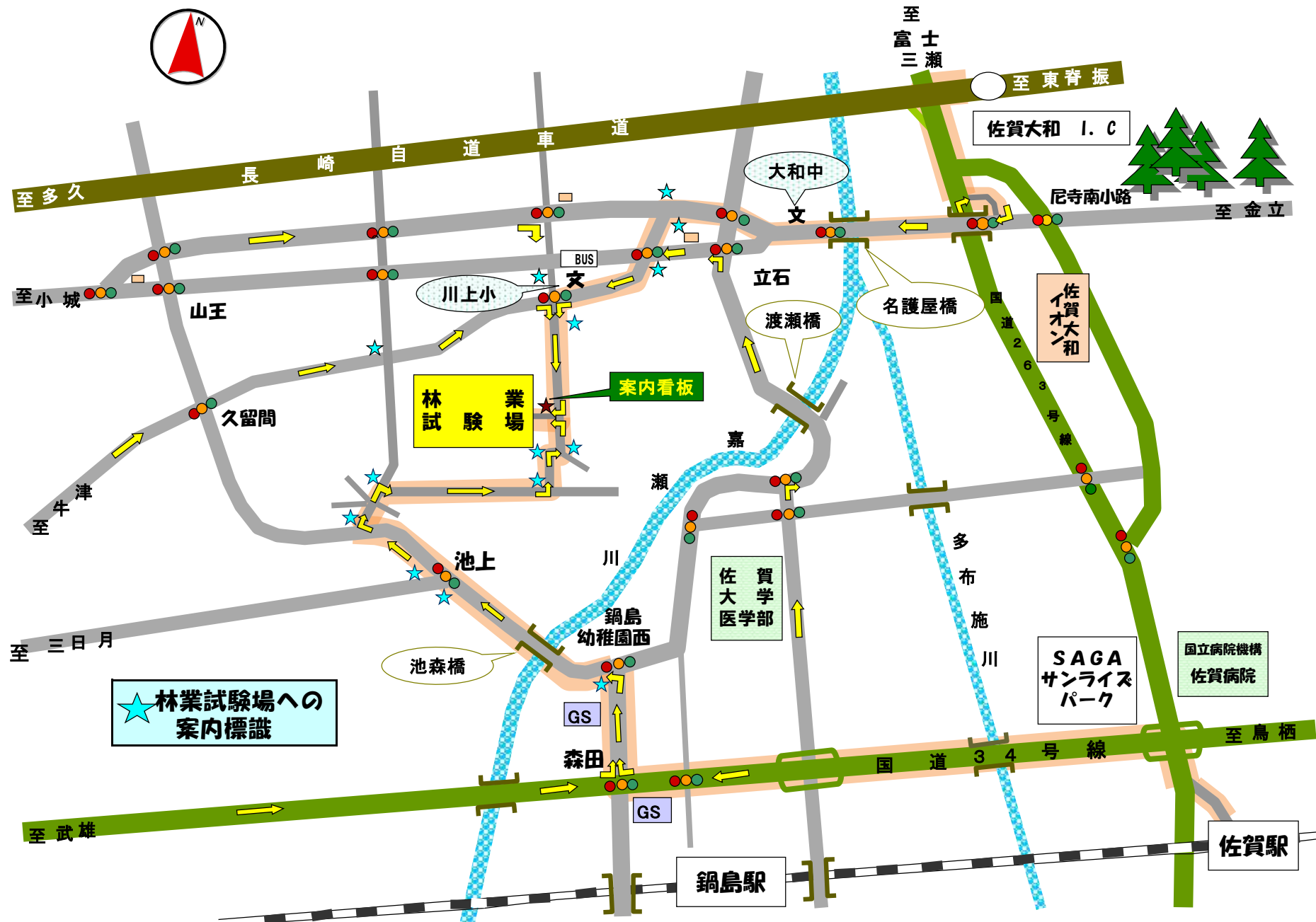
○林業講習会

林業作業に必要な資格を取得するとともに、基本的な安全作業の技術を習得する。

- ・森林・林業の基礎
林業の現状、木材市況の確認
- ・刈払機取扱作業安全衛生教育
基本的作業、各種刈刃の比較使用
- ・伐木等業務に係る特別教育
基本的作業、かかり木処理、造材
- ・車両系建設機械技能講習(外部機関)
- ・車両系木材伐出機械特別教育
(伐木等機械、走行集材機械)
基本操作、集材・造材・運搬



6 林業試験場案内図



● JR佐賀駅より タクシー：20分、バス：昭和バス小城行 中極下車後 徒歩20分

● 長崎自動車道 佐賀大和インターより車で7分